

25. 突発性難聴に対する高気圧酸素治療の効果—薬物療法後の高気圧酸素治療—

鎌田 桂 小笠原孝司 藤田幸治
柴田唯子 金谷春之

(岩手医科大学高気圧環境医学室)

【目的】 突発性難聴の治療には高気圧酸素治療(HBO)併用による良好な治療成績が認められている。一方、発症早期には薬物療法とHBOとの治療成績には差が認められないとする報告もあり、高度難聴及び薬物療法で改善の認め難い例についてHBOの適応としている。HBOが発症1カ月以後の症例についても有効とする報告も見られるが、HBOの開始時期は発症後何時までが適応であるかについて検討を行なった。

【方法】 1986年1月から1990年4月までの4年4カ月間に薬物療法が行なわれた後に8病日から99病日の間にHBOを開始した113例(男63,女49)について年齢、性別、発症から耳鼻科初診までの日数、HBOまでの日数、発症時の随伴症状、HBOの回数、難聴の程度について突発性難聴研究班の治療効果の判定基準によってそれぞれの効果との関連について調べた。

【結果】 初診からHBOの開始時まで著明回復6例、軽快12例、不変66例(78.6%)であり、HBO終了時では治癒3例、著明回復15例、軽快20例、不変46例(54.8%)であった。HBO前後での聴力の回復は発症から初診まで一週以内の症例では治癒1例、著明回復6例、軽快24例であり一週以後では治癒3例、著明回復1例、軽快3例であり、不変例はそれぞれ47例(57.3%)、32例(86.5%)であった。発症からHBOまでの日数とHBO前後での聴力の回復は、14日までにHBOを開始した例では著明回復4例、軽快8例(40%)、不変8例であり15~29日では治癒1例、著明回復2例、軽快10例、不変31例(70.5%)。30~59日では治癒2例、著明回復1例、軽快8例、不変29例(72.5%)であり、それ以降では13例中2例に軽快以上の回復を認めた。HBOは発症から一週以内に薬物療法が開始された例に一カ月以内に開始する事により効果が認められる。

26. Buerger氏病の骨癒合不全に対する高気圧酸素治療

浦山 博 坪田 誠 徳楽正人
加藤明之 中村寿彦 渡辺洋宇
岩 喬

(金沢大学医学部第一外科)

高気圧酸素治療(HBO)がBuerger氏病の虚血性潰瘍に効果があることは多く報告されているが患肢の骨癒合不全に対する報告は少ない。今回、下肢の骨折後の骨癒合不全に対してHBOを施行し著効を得たので報告する。

【症例提示】 症例1:33才,男。主訴:下腿疼痛。現病歴:1985年より下肢のBuerger氏病に対して保存的に加療を行っていた。1989年7月左脛骨骨折にて近医でKuentscher釘にて固定した。11月になっても骨癒合が見られないため当科受診となった。

【入院時現症と経過】 左下腿骨折部位は発赤、腫張、疼痛がみられた。血圧は上肢125/75mmHgに対して右足関節55mmHg、左足関節は測定不能であった。血管造影にて左膝窩動脈3分枝以降の閉塞を認めた。PGE₁製剤投与併用にてHBOを19回施行した。左足関節圧は50mmHgに上昇し、症状は消失した。また、X線にて良好な仮骨形成が見られた。

【症例提示】 症例2:47才,男。主訴:踵部疼痛。現病歴:1984年よりBuerger氏病にて加療を受けていた。1990年1月左踵骨の骨折にて近医でGips固定を行った。踵部疼痛増強のため当科受診となった。

【入院時現症と経過】 左踵部は腫張、圧痛が見られた。血圧は上肢106/60mmHgに対して左足関節100mmHgであった。血管造影にて左後脛骨、腓骨動脈の途絶を認めた。左腰部交感神経ブロック、PGE₁製剤投与併用にてHBOを15回施行した。症状消失し、X線にて良好な仮骨形成が見られた。

【結語】 Buerger氏病の虚血肢の骨折に対してはHBOが有効であった。